

隣のダンナ

私たちがなぜこんなアパートに住んでいるかというと、無謀な住宅ローンを組んで家を建てたからです。

夫と二人で夢を持って、一階がお店で二階が住まいという形の家を建てました。ところが商売はまったく軌道に乗らず、それでも死に物狂いで頑張ったものでした。

月々十二万の住宅ローンは待ってくれません。毎月無情に引き落とされていくのです。お客さんがまったく来ない日が続いて、収入が追いつかないときはカードローンで借金をして、住宅ローンを支払っていたのです。

借金はそれだけではありませんでした。店を始めるにあたって、いろいろな物を揃えないといけませんでした。その中には高額なものもあり、ローンで買ったものもありました。そして私の車の調子が悪くなり、そんな状態であるにもかかわらず新車を買ったのです。それもローンでした。月々の支払いは増えるばかりでした。

月四〇万もの支払いがあつたのです。そこまでいくと不安を通り越して、笑うしかありませんでした。不思議なもので人間開き直れるものですね。

それでも小さな喧嘩はよくしていました。もちろん原因はお金にまつわることばかりです。先ほど笑うしかないと言いましたが、私の心には不安しかありませんでした。

商売が上手いかな以上、それを諦めて、どこかで働くしかないのですが、夫はそれをしませんでした。

いつも家にいて、成り立っていない店をやろうとするのです。これだけ客が来なければ、私が一人で店番をしていれば十分でした。夫にはどこかでアルバイトでもしてほしいのですが、閑古鳥が鳴いている店で私と一緒に店番をしているのです。

そんなことでよくケンカをしました。もちろん楽しいことも少しはありました。が、ほぼ不安ばかりでした。

結局、弁護士の勧めで自己破産を申請して、それが通り、借金はチャラになりました。私たちはその家を出て、賃貸に引っ越したのです。

それから夫は本格的に就職活動をして、ようやく自分に合った仕事を見つけてくれたのです。そのときは私も肩の荷が下りた気がして、本当にほっとしました。

あの地獄の日々から抜け出すことができて、やっと人間らしい暮らしが

できるようになりました。借金に苦しんでいるときは缶コーヒー一本買うのでも悩みました。貯金なんか一円もできず、税金なども払えませんでした。それは引越したことにより踏み倒した形です。

私は今年で四〇歳になりますが、あの家に住んでいた頃の記憶は、ほとんど苦しかったことしか覚えていないのです。子供はまだおりません。もし子供ができたとしても、産めるような状況ではありませんでした。

今は家賃七万円の2LDKのアパートに住み、快適な暮らしをしています。夫と結婚してすぐに住宅ローンで家を建てましたから、本当に笑顔で話せる日が訪れたのは、賃貸に引越してからでした。あの家に住んでいた頃は心から笑った日はありませんでした。

今では休みの日になれば、夫と二人でドライブに行ったり、小さな旅行に行ったりしています。結婚して初めて、そんな楽しい暮らしができるよ

うになりました。